

令和3年度中堅（4期目以上） 民生委員児童委員実務研修

【内容】

1. 啓発 …金沢市の各種計画の策定過程と参画例を学ぶ
福祉問題を住民と共有する方法を学ぶ
(担当：金沢市福祉健康局福祉政策課)
2. 地域連携…連携づくりの方法および地域資源の開発について、事例を通して学ぶ
(担当：金沢市地域包括支援センター)

各種福祉計画策定への参画事例

- ①金沢市地域福祉計画2018の例
- ②長寿安心プラン2021の例
- ③かなざわ子育て夢プラン2020の例

①金沢市地域福祉計画2018の例

○目的

急速な少子高齢化の進展に伴い、民生委員児童委員・主任児童委員の活動領域が広まり、業務量が増加傾向にあるため、その活動実態の把握と今後の役割や機能を検討するため

○実施方法

書面アンケート調査（各地区とりまとめて提出）

○対象者

金沢市の全委員 1,101名（男408名、女693名）

○調査内容

- ・ 回答者の状況
年齢、就労状況、在任期間、これまでの地域活動の実績など
- ・ 活動に対する意識について
やりがい、地域住民の理解度、担当世帯数
- ・ 現在の活動と今後について
支援を行う世帯の状況、活動上の苦労や悩み、今後必要なこと

○計画への反映

今後の民生委員等の活動環境整備に必要な課題をまとめ、負担軽減や町会等との連携・協力体制の強化、円滑な活動が行えるよう手引きや事例集の作成、実務研修会の実施などを計画に明記

②長寿安心プラン2021の例

○目的

長寿安心プラン（介護保険事業計画）の策定に当たり、被保険者の意見を反映させることが求められている。介護サービス事業者や利用者等に向けてアンケート調査を実施し、民生委員児童委員に対しても地域住民の意見を汲み上げることを目的として回答を依頼した（任意回答）。

○実施方法

アンケート調査（書面又はWEB回答）

○対象者

金沢市民（全回答者251名　うち民生委員児童委員回答者85名）

○調査内容

- ・ 回答者の状況（年代、立場）
- ・ 長寿安心プラン2021の策定に向けての課題や金沢市の高齢者施策について
- ・ その他、介護保険に関して

○計画への反映

全回答内容を長寿安心プランにおける施策の項目毎に整理を行い、被保険者の要望が多い事項を把握等するために活用した。民生委員の方々からは、「施設の必要性」「介護人材の確保」「元気高齢者の活躍」などについて意見を頂いた。

全ての意見について整理・集約を行い、施策検討時に参考とさせていただきます。

③かなざわ子育て夢プラン2020の例

○目的

新たなプランの策定にあたり、子育て世帯等から無作為抽出で実施した「幼児教育・保育及び子育てに関するアンケート調査」だけでは分からない地域の声を聞きとるため

○実施方法

地域団体との意見交換会

(児童館のブロック幹事館の地区を中心に市内6地区で実施)

○対象者

児童館運営委員、民生委員、主任児童委員、町会役員等
地域の関係者

○意見交換のテーマ

- ・日頃、地域で活動されている中で、最近の子育ての現状について感じていること
- ・子育て世代に必要な支援が行きわたるためには、どのような取り組みが効果的であると思うか 等

○計画への反映

- ・新たに留意する視点として「人や地域とのつながりを大切にする」を追加
- ・新たに基本方針「人と人がつながるまちへ」を設定

参考：地区別地域福祉活動計画

○目的

地域課題を地域全体で共有することにより、解決する方法を地域で考えることができ、諸団体との連携や事業調整につながるため

○実施方法

地区別地域福祉活動計画策定委員会（地区社協主催）

○対象者（例）

地区社協、地区民児協、公民館、児童館、包括、町会連合会等

福祉問題を住民と共有する方法

民生委員児童委員協議会として、地域の福祉問題を住民に伝え、共有する方法について学ぶ

地域の福祉問題（福祉課題）

◆急激な少子高齢化

R3.9.19総務省が公表した高齢化率は29.1%

←過去最高を更新

※金沢市の高齢化率は29.2%（R3.4.1現在）

◆人間関係の希薄化が進み、**孤立・孤独**という問題が顕在化

◆**8050問題**（80代の親と50代の無職の子）

◆ひきこもり

地域の福祉問題（福祉課題）

- ◆高齢者・障害者・児童虐待
- ◆生活困窮者の増加
- ◆災害時の要援護者支援体制 など

…**複雑・多様化、深刻化**



長引くコロナ禍が拍車をかけている



なぜ、地域の福祉問題を住民に伝え、共有する必要があるのか

地域住民ひとりひとりが地域の福祉問題に関心を寄せることが、「**地域共生社会**」の第一歩

「地域共生社会」とは…
制度・分野の枠や「支える側」「支えられる側」という関係を超え、人と人・人と社会がつながることで、住民ひとりひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創ることができる社会



なぜ、地域の福祉問題を住民に伝え、共有する必要があるのか

- ◆地域の福祉問題に関心を持つ住民が増えることで、困りごとを抱える住民を早期に発見し、相談支援につなげやすくなる
- ◆町会など地域の各種団体との連携が進めやすくなる
- ◆民生委員活動に対する理解・協力が得られ、支援者の拡大、ひいては民生委員のなり手確保につながる可能性

具体例をイメージしてみる

担当地域にお住まいの花子さんは、80代の女性で長男夫婦と暮らしています。

よく地域サロンに参加されていましたが、新型コロナウイルスの影響で、現在サロンは休止しています。



近所のスーパーで、久しぶりに花子さんに会ったので声をかけたところ、夏なのにセーターを着ている、会話のつじつまが合わない、会計に戸惑うなど、花子さんの様子がおかしいことに気づきました。

「もしかして認知症の症状では？」

「認知症になっても、特に買い物の時など、地域の方のさりげないサポートがあれば安心できるなあ」

「認知症について地域の方に伝える企画をできないかなあ」

どんな方法が考えられるか

◆伝えたいことを整理する

- 認知症に関する正しい情報 ⇒ 誤解や偏見をなくす
- 認知症の方への対応方法
- 認知症の予防 など

◆どのように伝えるか

- 勉強会や研修会の開催（認知症サポーター養成講座など）
- 交流会の開催（認知症カフェなど）
- チラシやリーフレットの作成
- 要援護者マップの作成 ※後述
- アンケート調査と報告会の実施 ※後述 など

どんな方法が考えられるか

◆関係機関等との連携・協働

・地域包括支援センター

⇒既存の認知症カフェを生かさないか

⇒専門職（認知症地域支援推進員）との連携 など

・町会

⇒町会単位での取組の可能性

・地区社協

→地域福祉活動推進の中核

民生委員との連携が不可欠





地域住民

知恵と力を出し合う場の設定・支援



社会福祉に関する活動を行う者
民生委員児童委員、まちぐるみ福祉活動推進員、ボランティア、NPOなど

住民の福祉向上



※構成団体は一例です。

社協のL字型構造
(各種団体と横並びで重なり合う組織)
福祉としての専門性を発揮し、各種団体と協働して地域福祉を総合的にすすめます。



社会福祉を目的とする事業を経営する者
社会福祉法人・NPO法人・民間企業・生協等の事業者

問題発見と課題整理



市役所など

要援護者マップ

(地域支え合いマップ／つながりマップ)

◆個人情報に関する留意点

メンバーが知っている情報を出し合わないに進まない

⇔全ての情報を、全てのメンバーと、共有しなければならないわけではない

※「**支援に必要な情報**」のみを共有する

※台帳調査のための高齢者リストや避難行動要支援者名簿など、**行政から提供された情報をそのまま共有することはしない**

アンケート調査と報告会

◆アンケート調査は、地域住民の実際の生活状況や思いを把握・集約し、地域課題を分析するための有意義な方法

◆アンケート結果を地域住民に報告し、地域住民とともに対応方法を考える

泉野地区「地域安心生活支え合い事業」住民説明会

誰かの役に立つボランティアがしたいな
 あ手伝いでくれる方がいないかな？
 ご近所さんともっとつながりたいわ

泉野地区では高齢者の皆さんが安心して暮らせるまちづくりのために、「日常生活でお手伝いを必要としている方々を身近な地域住民が支えていこう」という新たな取組みを考えています。

お申込みは不要です。たくさんの方のご参加をお待ちしております！

2019年12月
7日(土)・8日(日)
 第四善隣館 (泉野町1-1-25) 泉野サロン (泉野町5-10-6)

①14:00~15:00
 ②19:00~20:00
 ※両日2回開催
 4回とも同一内容です。

【説明会内容】
 ①泉野地区高齢者のニーズ調査結果報告
 ②今後の取組み内容について
 ③意見交換

【お問い合わせ】
 泉野地区社会福祉協議会
 ☎241-3316

(例) 「地域安心生活支え合い事業」におけるアンケート調査

(地域の高齢者のちょっとした困りごとを把握する)

泉野地区・・・住民説明会を実施 申込不要 誰でも参加OK

鞍月地区・・・地区社協の広報誌に結果を掲載

鞍月地区「地域安心生活支え合い事業」結果報告書

地域住民(南新保町・近岡町・直江町・大友町)アンケート

1 調査実施概要
 ①調査の目的: 鞍月地区における住民の福祉に関する課題を把握することと、特に困りごとの解消に役立つアイデアを募集する。
 ②実施主体: 鞍月地区社会福祉協議会 鞍月町下町会連合会
 ③回収率: 65歳以上の方や身体に不都合のある方へのアンケート(31/65) ボランティア活動へ参加してみたいと考えている方へのアンケート(20/66)

2 集計結果
 65歳以上の方や身体に不都合のある方へのアンケート結果
 南新保町-145人 近岡町-218人 直江町-98人 大友町-36人

困っている時に手助けできる方
 南新保町-22人 近岡町-52人 直江町-65人 大友町-17人
 ご近所の方が困っている時、手助けできること(上位5項目)

	南新保町	近岡町	直江町	大友町
第1位	声かけ(34)	声かけ(80)	声かけ(63)	声かけ(27)
第2位	雪かき(21)	雪かき(58)	雪かき(55)	雪かき(14)
第3位	ゴミ出し(20)	ゴミ出し(36)	ゴミ出し(36)	ゴミ出し(13)
第4位	話し相手(16)	話し相手(30)	話し相手(26)	話し相手(12)
第5位	話し相手(12)	話し相手(26)	話し相手(25)	買物代行(8)

～ご協力ありがとうございました～

鞍月地区では、令和3年度よりひとり暮らしの高齢者が地域で安心して生活できるよう、地域住民の生活サポート体制を鞍月町新町会でスタートしています。
 今回は、送迎補助の拡大を目指し、南新保町会、近岡町会、直江町会、大友町会の協賛の協力のもと、送迎の拡充へアンケート調査を実施いたしました。ご多岐の御意見をいただき、誠にありがとうございました。
 今後アンケート結果をもとに、送迎補助や乗降補助、急病時対応と連携しながら実施したい事業を講じてまいります。御理解のほど、よろしくお願いいたします。

令和3年1月 鞍月地区社会福祉協議会 会長 南野 真一

地域安心生活支え合い事業

◆任意の支え合いに任せきりにしない、日常生活のサポート体制づくり

隣近所の任意の支え合い
(個人の善意)

⇒

仕組みとしての支え合い
(継続性の確保)



身近な地域でおしゃべりの場
～コミュニティカフェ～



集まる場+お買い物
～サロン市～



生活支援サービス
～お助け隊～

まとめ

- ◆ 4期目以上の皆様は、民生委員経験が長いからこそ、活動を通して多くの気づきがあることと思います。
- ◆ いち民生委員ではできなくても、地区社協などと連携することのできることもあるかもしれません。
- ◆ 市に提言を行うことで、制度や施策そのものの改善につながるかもしれません。
- ◆ 地域全体・市全体まで視野を広げてみていただければと思います。

令和3年度中堅民生委員実務研修会（4期目以上対象）
連携づくりの方法

関係機関・団体・ボランティア等との 連携づくり

金沢市地域包括支援センターさくらまち
長井裕美

平成21年ころ 民生委員会長さんの一言

- 民生委員次期改選で、半数近く新任者になる
- （包括）長年民生委員をされていた方が持っておられる地域情報を収集しておくことが必要？
- （包括）高齢者福祉保健台帳情報は、各民生委員さんと包括で同じ？

会長さんと話し合いのうえ

- 個々の民生委員さんの持っている高齢者福祉保健台帳と、包括が持っている高齢者福祉保健台帳のすり合わせの実施
- （効果）個別に民生委員さんと面談することで情報を共有
- （その後）高齢者福祉保健台帳の一斉調査の翌年に実施

平成25年ころ 民生委員さんの一言

- 民生委員としての経験が長くても、困ったケースに出会うかどうかは、わからない
- いざ出会ったときに、どう対処したらよいか迷う
- 地域包括にはどんなことを相談したらよいのかな??



民生委員定例会にて対応事例紹介

- どのようなことを知りたいか、アンケート実施
- 年3回程度民生委員定例会前の時間をいただき、対応事例を紹介し質疑応答
- （効果）包括に相談した後の対応について質疑応答で深めることができた

ゆるやかな見守りにご協力ください！

こんにちは！金沢市地域包括支援センターさくらまちです。

金沢市地域包括支援センターは

《**高齢者の方の相談窓口**》で金沢市内に 19 か所あります。

当センターは味噌蔵・材木地区の担当であり、宗広病院さくら館にあります。

味噌蔵・材木地区は 3 人に 1 人が 65 歳以上の方です。

お一人暮らしや高齢者の方だけで生活している世帯がたくさんあります。

ご近所同士、ゆるやかな見守りがあることで安心して生活することができます。

「最近見かけないな・・・。」

「足が辛そうだけど大丈夫かな。」

「声を掛けても元気がないな・・・。」

「なんだか大きな声で怒鳴っていて心配・・・。」



見守りしている中で気になることがあればお気軽にお電話ください。

相談内容により必要な窓口につないだり、ご様子を伺ったりすることも可能です。

平成29年度 民生委員会長さんの一言

- 昨年の改選で、半数程度の民生委員が新任
- タイムリーに民生委員が知りたいと思っていることをテーマにしてほしい

平成29年～令和2年度

- 民生委員役員会に参加して、周知テーマについて相談し、年3回民生委員定例会に参加
- 認知症の方の支援から地域ケア会議
- 緊急通報のセンサーにて発見された事例
- 何を相談してよいのか
- 令和2年度は、コロナ感染拡大で1回のみ

平成29年度 町会連合会会長さんの一言

- 包括のことを知らない町会長・地域住民がまだまだ多い
- 孤立死がこの地区にもあるということを知らないんじゃないかな
- 町会長が毎年又は2年おきに交代の町会が半分くらいあるんだよね

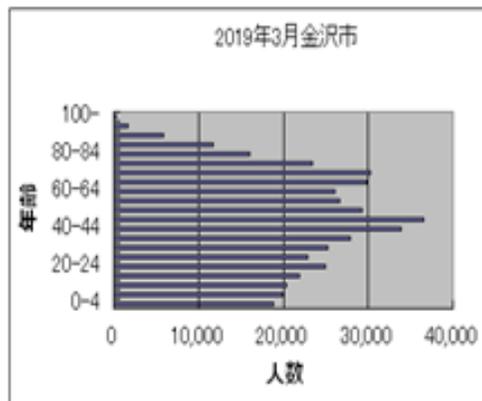
平成29年～令和1年度

- 町会連合会総会にて包括についての広報
- 地域の高齢化率が30%超過し、金沢市の20年後の状態であること・孤立死があることの報告
- （効果）町会長さんから包括への連絡が入るようになる
- （効果）町会での認知症サポーター養成講座
- 令和2・3年度は総会開催なし

平成31年町会連合会総会配付資料より

金沢市の現状と 2040 年

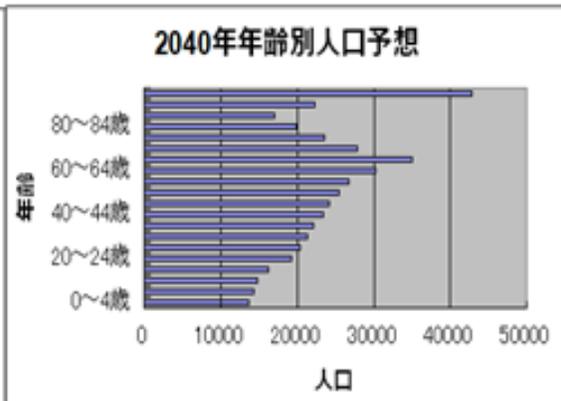
出典 金沢市統計調査



高齢化率 26%(2015年 25%)

75歳1人を支える生産年齢者 4.8
(2015年 5.7名)

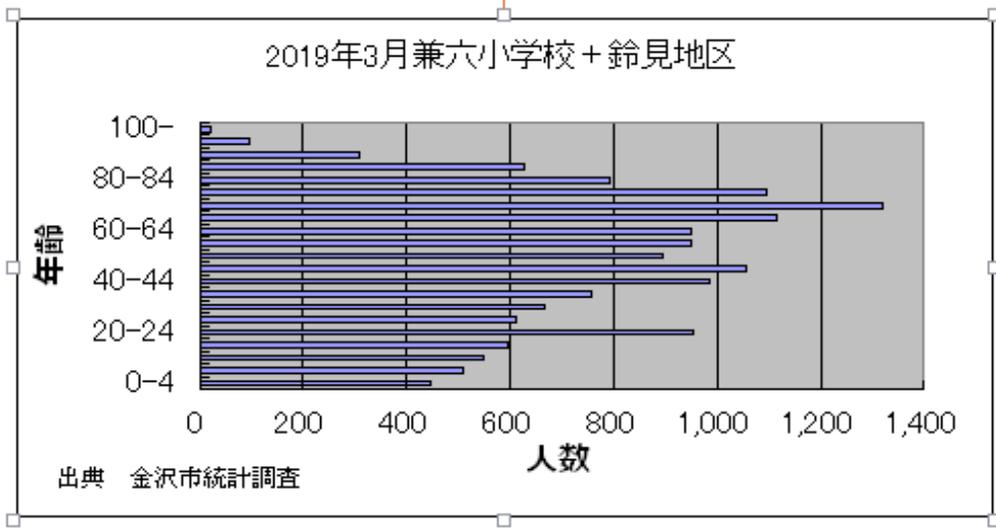
出典国立社会保障 人口問題研究所



高齢化率 35%

75歳1人を支える生産年齢者 3.3名
団塊の世代の子が 65歳

包括さくらまちエリア（兼六小学校校区+鈴見台・杜の里3丁目）



出典 金沢市統計調査

包括さくらまちエリア（金沢市統計調査 2019年3月）全 15300名（2018年比-215）

65以上（高齢者）人口 5377名（2017年比 -6名）

75歳以上（後期高齢者）人口 2941名（2017年比 +79名）

15歳～64歳（生産人口）8420名（2017年比 -2192名）

高齢化率 36% 75歳1人を支える生産年齢者 2.86名

認知症有病率（推定率・厚労省資料より 65歳以上の15%）1263名

孤立死 2015年度5名 2018年度 6名（包括さくらまち認知数）

徘徊死亡例1名・2019年3月から不明例1名

人口減少 高齢化の進行 認知症の増加 地域を支える世代減少
住み慣れた地域で暮らし続けるための地域づくりの必要性

平成29年 民児協事務局からの一言

- 民生委員さんと町会長さんの連携ができているところと、難しいところがあるみたいで・・・
- 民生委員さんの新任も多いし・・・
- 町会長さんが毎年変わるところもあるし・・・
- 町会長さんも防災マップ作成で困っているかも

材木地区見守りマップづくり

- 平成28年から包括も参加
- 平成29年から町会長にも参加呼びかけ
- 町会長の参加は、半数程度
- 町会長と民生委員・まちぐるみ推進員の連携強化
- 集りの場を検討したいという町会長の出現

令和3年度包括さくらまち 事業計画作成にて

- 令和2年度相談において、生活困窮・成年後見制度利用・認知症対応が多かった
- コロナ禍において、民生委員さんも苦慮されているのでは？
- 民生委員さんが包括以外の専門職に直接事例を通して意見交換することで、理解を深めることができるのではないかと

令和3年度定例地域ケア会議として

- 成年後見事例紹介し関わった司法書士も参加
- 生活困窮事例紹介し関わった金沢市社会福祉協議会職員
又は郵便局職員の参加検討
- 認知症事例紹介し関わった精神科病院相談員参加を検討

令和3年度定例地域ケア会議として

- 民生委員定例会の前に開催
→ 多数の参加が可能
- 定例会以外の日に参加可能な民生委員さんで開催
→ 少人数で質問しやすい環境

連携って何をしたらよいの？

- まずは、声に出してみる事
- 一人で抱え込まない事
- 誰でもひとりでできる事には限界がある
 - 知っている人につながる事が連携
- 一度に完璧は無理
 - 出来ることからひとつづつ、少しずつ広げる
- チームで役割分担すること
 - 随時型（個別）地域ケア会議の活用

金沢市の地域ケア会議とは・

金沢市地域包括支援センター連絡会地域ケア会議マニュアルより

【随時型】

個別の支援困難事例の検討

緊急に検討されるべき事例の検討

【定例型】

地域課題を意識して計画的にテーマや目的をもって実施

緊急を要しない個別事例をとおして予防的な対応を検討

金沢市の地域ケア会議とは・・・

金沢市地域包括支援センター連絡会地域ケア会議マニュアルより

- 介護支援専門員や民生委員をはじめとした地域住民から相談があった事例の中で、本人や介護者の個別課題の解決に向け、**地域関係者のネットワーク構築に基づいた取り組み**や介護支援専門員のバックアップが必要な時に開催
- 必要に応じて多様の機関との**連携や役割分担**を行い、利用者や地域住民の生活の質の向上と自立支援を支援

介護保険法（地域ケア会議関係抜粋）第115条の48

市町村は、第115条の45第2項第3号に掲げる事業の効果的な実施のために、介護支援専門員、保健医療及び福祉に関する専門的知識を有する者、民生委員その他の関係者、関係機関及び関係団体（以下この条において「関係者等」という。）により構成される会議（以下この条において「会議」という。）を置くように努めなければならない。

- 2 会議は、要介護被保険者その他の厚生労働省令で定める被保険者（以下この項において「支援対象被保険者」という。）への適切な支援を図るために必要な検討を行うとともに、支援対象被保険者が地域において自立した日常生活を営むために必要な支援体制に関する検討を行うものとする。
- 3 会議は、前項の検討を行うため必要があると認めるときは、関係者等に対し、資料又は情報の提供、意見の開陳その他必要な協力を求めることができる。
- 4 関係者等は、前項の規定に基づき、会議から資料又は情報の提供、意見の開陳その他必要な協力の求めがあった場合には、これに協力するよう努めなければならない。
- 5 会議の事務に従事する者、又は従事していた者は、正当な理由がなく、会議の事務に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。
- 6 前各項に定めるもののほか、会議の組織及び運営に関し必要な事項は、会議が定める。

令和3年度中堅民生委員実務研修会(4期目以上対象)
地域資源の開発

地域資源の開発の手法について

金沢市地域包括支援センターふくひさ
猪又 佑史

事例①

有償型住民福祉サービス「おたすけ
隊」が関係機関と協働し住民のニーズ
を掘り起こし、新たなサービスを創出し
た事例

おたすけ隊とは

- 地域安心生活支え合い事業の取組み
- 千坂地区の有償型住民福祉サービス
- 活動内容：庭や草木の手入れ、エアコン掃除、障子はり等
- 費用：1時間500円程度

◆おたすけ隊、市社協の生活支援コーディネーターより

サービス利用者が固定化されている。内容も庭木の剪定など、一定の内容になりつつある。

◆ケアマネジャー、地域包括支援センターより

朝のゴミ出しが困難な要介護者がいる。ホームヘルパーの不足もあり介護サービスの調整も難しい。



会議の開催

4機関の意見を擦り合わせ、おたすけ隊として新たなサービスが創出できないか検討。

検討の結果「**要支援者高齢者世帯ゴミ出し代行**」サービスを創出した。

事例のポイント

①様々な角度からニーズをみる

所属している機関によって見えている地域のニーズは違います。関係機関と連携しニーズを多角的にみることで地域の課題を解決できる糸口になるかもしれません。

②課題解決は一機関では難しい

福祉専門職だけでは課題を解決することができません。みなさまと協働し個別の課題、地域の課題を解決していきましょう。

③ニーズは変化していくもの

地域のニーズは地域の実情や時代によって変化します。それに合わせ、現存するサービスも変化していく必要があります。

事例②

住民からの声を集め、 地域資源の開発につなげた事例

某スーパーの閉店に伴い、そこでの宅配サービスが終了。地域の課題として捉え、民生委員、市社協、地域包括支援センターが協働し、住民アンケートを実施し移動販売車の誘致につなげた。

令和2年度に小坂、森山地区で実施
(本事例は小坂地区の御所・南御所について)



某スーパー閉店が決定



包括への相談電話

スーパー閉店による住民への影響

- ① 買い物する場がなくなる
- ② **配達サービス** (店で買ったものを家まで届けてくれる)
- ③ **宅配サービス** (連絡すれば商品を届けてくれる)
が利用できなくなる

配達・宅配サービス利用者から代替サービスの問い合わせ

② **配達サービス** ③ **宅配サービス** についてお困りの声や代替サービスについて地域住民からの問い合わせが地域包括支援センターに複数件寄せられる。



地域課題として仮定

市社協の生活支援コーディネーター、包括とで協議

「スーパー閉店により買い物が困難になる方が増えるのでは？」

「現段階でも買い物困難地域があるのでは？」と仮定。



地域の民生委員からもご意見を伺い、地域課題について検討することとした。

方法として**地域ケア会議（定例型）**の開催とした。

参加者：地区会長および地区担当民生委員、生活支援コーディネーター（市社協） 包括

地域ケア会議(定例型)の開催(計2回)

民生委員さんより日頃の活動からの経験、聞いている地域の声を聞かせていただく。

- 「宅配配達サービス中止に関する相談はない」
- 「買い物時、熱中症や積雪が心配という声を聞いたことがある」
- 「別居の家族や隣近所で支援している人がいる」
- 「困っている方もいるかも。住民に聞いてみてもよいのかも」

意見交換の結果、住民アンケートによる地域ニーズ確認の必要性について出席者の意見が一致。

地区民児協、地区社協、包括連名で訪問でのアンケート調査を実施する運びとなる。

住民アンケートの実施

民生委員、包括職員で分担し訪問調査による買い物アンケートを実施した。
(調査対象:独居、高齢者夫婦世帯)



第3回地域ケア会議（定例）の開催



地域アンケートの集計と分析

自動車での買い物や家族支援により困っていない声が多数。
反面、「降雪時が不安」「家族に頼むが直接見て買いたい」「運転免許返納後が心配」という声も聞かれた。

生活支援コーディネーターからの提案

移動販売車誘致の提案。
直接見て買うことができる。集まりの場にもなり、見守り支援としての効果もある。

移動販売車の販売場所の確保

- 民生委員から町会長、候補地所有者に経緯と趣旨を説明。
- 町会、土地所有者の了解を得て、販売場所を確保できた。
- 具体的な時間や方法については、移動販売車の担当を交え協議した



移動販売車についての周知活動

- チラシを包括で作成。
- アンケート実施世帯には民生委員、包括職員とで分担しチラシを配布。
- 民生委員から町会長へチラシを渡して頂き、回覧板に入れ町会住民に対し周知した。

移動販売車開始から現在まで

民生委員さんによる活用状況の確認、販売場所の再調整、継続した周知活動により現在に至る。

令和3年10月現在、利用者も徐々に増え住民の買い物の場として地域に定着してきた。

ふりかえり①

- 地域包括支援センターのみでは地域課題の把握が困難
 - 地域包括支援センターとして考えた地域課題は推測にしかすぎず不十分
-
- 民生委員さんからの情報や意見をいただくことで、精度の高い課題抽出につながった。
 - 2地区合同での地域ケア会議を定期で開催したことで、横断的な問題抽出につながり良い意見交換の場となった。

ふりかえり②

アンケート訪問については、地域包括支援センター単独では回収率が見込めない可能性があった

- 地区民児協、地区社協と合同実施により、住民の理解が得やすくスムーズに行えた。
- 事前に民生委員からの事前周知もあり、円滑なアンケート訪問が可能になった。

ふりかえり③

移動販売店誘致には地域の理解も不可欠であった。

- 民生委員と町会の連携ができており、「町会長への個別説明」から「町会の各班長、住民への伝達」と続く周知がスムーズに行われた。
- 開始後も民生委員さんが定期的に確認を行い、場所や時間の微調整も行い、地域の実情に合わせた対応ができた。

地域課題の把握と周知活動について

• 地域課題の把握

本事例では、地域課題の把握のため訪問アンケートという手法をとりました。多くの意見を一度にとるのであれば、住民座談会を開催したり、地区の民児協定例会議で意見交換するなど方法は様々です。

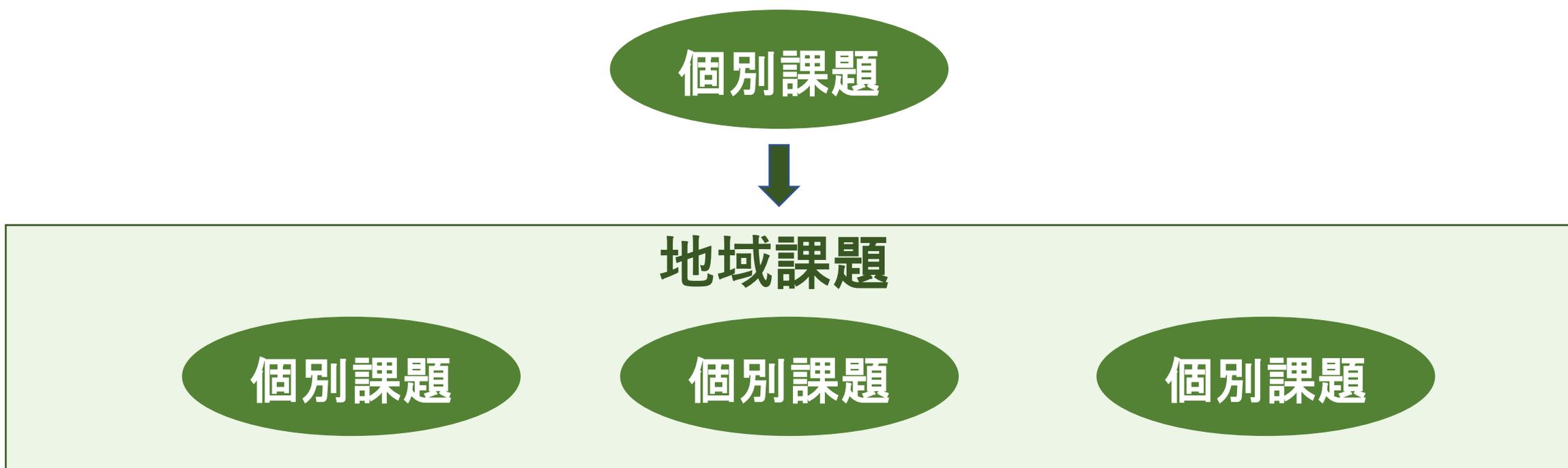
• 周知活動

周知活動の手段としては、個別説明、町会と連携した回覧板の活用、住民説明会等があります。場合によっては社協や包括支援センターに相談してもよいと思います。

個別の課題から地域の課題を考える

個別の課題1つがあるとしたら、地域の中で同じ課題が起きている可能性もあります。

個別課題から地域の課題を考えていくことも大切です。



地域の課題から地域資源を考える

- 地域の課題を解決する既存のサービスが地域になれば地域資源を開発する視野も必要です。
- 資源開発と聞くと難しく聞こえるかもしれませんが、住民同士の見守りを依頼することや地域サロンの活動、地域安心生活支え合い事業なども資源開発です。
- 現在ある地域の資源をより良くしていくことも必要です。まずは、自分の地域にある現在の資源を再確認してみましょう。

関係機関とつながる・つなげる

- 地域課題の発見と地域資源の開発についてお話ししましたが、これらは単独でできるものではありません。
- 今回の事例では地区民児協や町会、社協や地域包括支援センターと協働し資源開発につなげました。地域にある機関や組織と連携できそうなことはないか考える視点も大切です。関係機関とつながったり、つなげるというひとつひとつの過程が地域のちからをつけていくことにつながると 생각합니다。

まとめ

みなさまが抱える個別の問題は、もしかしたら他の民生委員や住民も同じ問題を抱えているかもしれません。

まず、声にだして頂くことで個別の問題だけでなく地域の問題解決につながり、地域のちからにつながっていくと思います。

お互いの得意分野をいかしながら
より良い地域づくりをしていきましょう